

今回は、高校教師について、さまざまな資料やデータを見ながら考えていただきます。

この科目は中高向けの「教育課程論」ですので、この科目を受講している皆さんは、中高の教員になることを考えている方も多いと思います。

中学校と高等学校の教員では、同じ中等教育で、共に教科担任制ですので共通点もあると思いますが、実際は中学校教員と高等学校の教員では違いは大きいと思います。

ここでは高校教員のデータやそれを考察したものを見て、高校教師について考えていただきます。

中学校の教員になろうか、あるいは高等学校の教員になろうか、(あるいは小学校の教員になろうか)と迷っている人もいると思いますが、ここでは、高校教員に関するデータや論を読んで、それを考えて下さい。

1 高等学校の教員採用試験の倍率

理想や強い思いだけで、高校教員になれるわけではありません。教員採用試験の現実をデータで見ておきたいと思います。

以下では千葉県の令和3年度の数字を見ておきましょう。(他の都道府県のデータは、各自お調べ下さい)

[https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/syokuin/ninyo/documents/R3_goukakusya-
itiran.pdf](https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/syokuin/ninyo/documents/R3_goukakusya-
itiran.pdf) (授業資料14-1)

小学校の場合、受験者1671名、合格者807名、倍率は2.1倍です。

中・高(高校のみ)の場合は、科目別に見てみましょう

社会科は、受験者は547名、合格者107名、倍率5.1倍です。

英語科は、受験者323名、合格者120名、倍率2.7倍です。

商業は受験者51名、合格者10名、倍率5.1倍です。

このように、小学校に比べ、中高の採用試験は倍率が高く、狭き門になっています。

それは、中高の社会科や英語科の教員免許が、限られた大学でしか取れない小学校免許と比べ、どこの大学でも取りやすく、受験資格も持つ大学生が多いためです。

特に社会は、法学部、経済学部、社会学部、文学部の学生でも免許が取れる大学が多く、受験者が多くなっています。

したがって、中高の教員になりたいと考えている人は、小学校の教員になるより倍以上難しく、その為の覚悟と勉強が必要なことを自覚してください。

2 高校教師の実態

高校教師はどのような人なのか、どのような生活を送っているのか、どのような教育観の持ち主なのか。

私が関係した調査「高校教員の教育観とこれからの高校教育」（中央教育研究所 研究報告 No.92,平成 30 年 12 月）がありますので、それからいくつか、見てみます。

（調査報告書 全体は下記のサイトから読めます。

<https://chu-ken.jp/pdf/kanko92.pdf> ）

第 1 に、その報告書のコラムに「高校教師について」という題で、井上茂先生（敬愛大学 特任教授）が、教育現場で長年観察されてきた高校教師の実態が赤裸々に描写されています。（授業資料 14-2-1）。

第 2 に、高校教師の経験ある穂坂明德氏の高校教師のタイプ（燃える教師タイプ、部活に打ち込むタイプ、サイレントマジョリティタイプ、上昇志向の強い実務者のタイプ、教科のエキスパートタイプ、研究志向タイプ）が、興味深いものです。

読んで、自分のタイプを考えて見て下さい（授業資料 14-2-2）

第 3 に、教師はその勤務する学校のタイプ（高校間格差や校風）によっても、指導の方法が違ってくると思います。

そのようなことをデータから考察した私の書いた新聞記事（「高校格差、教師の意識は」2018 年 10 月 1 日、日経新聞）（以前に提示したことがある）を読んで下さい。（授業資料 14-2-3）

3 高校の新カリキュラム

学習指導要領の改訂で、2022 年度より高校も新しいカリキュラム（科目、単位数）のもとで教育が行われます。皆さんが関係する社会と英語について見てみたいと思います。

ネット上にいろいろ出ていますので、ご参照下さい。たとえば、下記
（https://eic.obunsha.co.jp/pdf/educational_info/2016/0803_1.pdf）

新学習指導要領に関して、下記のように簡潔な解説もあります。（社会と英語のみ抜粋）

「2022 年度から始まる高校の学習指導要領・改訂案を解説」

（<https://www.inc-reliance.jp/kyouiku/67604>）

A 社会は歴史総合と公共が必修になる

2022 年度の学習指導要領の改訂案で高校の地理歴史・公民は大きく変わります。

(1) 地理歴史は近現代史が詳しくなります

地理歴史はこれまで、世界史 A、世界史 B、日本史 A、日本史 B、地理 A、地理 B に分かれていました。これが、歴史総合、世界史探究、日本史探究、地理総合、地理探究に変わります。総合は基礎・探求は応用それぞれ、総合は基礎的内容、探究は応用的な意味合いがあります。

歴史総合が必修科目になり、これまで避けがちだった近現代史を中心に学びます。国際化が進む中、諸外国との認識に違いが出ると困るからです。ただし政治的に偏った内容になりがちなテーマなので、先生の指導法が問われそうです。

日本史と世界史を融合—また歴史総合において、日本史と世界史を融合した授業が期待されています。

(2) 公民は公共が必修になります

18 歳から選挙権が得られるようになりました。これにあわせて公民も変わります。これまでの教科は、現代社会、倫理・政治・経済であり、3つのうちどれかを選ぶ選択必修制でした。2022 年度の学習指導要領の改訂案で高校の現代社会が公共に変わり、これが必修科目になります。公共では、高校生であっても集団の中の一員であることを自覚し、政治へ積極的に参加することを念頭に置きます。また少子高齢化、安全保障、グローバル化などの視点を取り入れます。さらに、これも避けがちだった領土問題についても詳しく学びます。

B 外国語は文法中心からの脱却を図る

英語コミュニケーション I は必修です。大学入試でも英語は、読む、書く、聞く、話すこの 4つが求められるようになります。そのため 2022 年度の学習指導要領の改訂案で高校の英語は、コミュニケーション重視の学習内容に変わります。実際の授業ではディベートやプレゼンテーションなども取り入れられる予定です。特に、文法中心の学習からの脱却を図り、高校で新たに追加する単語数は 2500 語以下に止めます。2022 年度から入学する高校生なら小学校から英語は始まっているので、大学入試までには、覚えるべきとされる単語数は 5000 語程度になります。

今回の課題は、下記です。

高校教師、高校教師の現状やデータを見た上で、高校教師とはどのような仕事で、どのような人達だと思いますか。あなたが高校教師になるとするとそのような教師を目指しますか。(あるいは、中高の教員免許をとっても目指すは中学校の教師、あるいは小学校の教師、あるいは教師にはならないと考えている人はいると思いますが、それはなぜですか)

上記の課題に対して、200 字～1000 字で、「課題 提出」から武内に送って下さい。